

令和二年五月一日発行（毎月一回）日  
書 象 第六十八巻 第五号 通巻七四号

書 象

日本書道芸術協会  
SHO JAPAN  
設立1951年  
代表理事 山本 善太郎  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
電話 03-5561-1111  
FAX 03-5561-1112  
E-MAIL sho@sho-japan.com



日本書道芸術協会

2020-5

読売書法展・日展原案同時進行

副理事長 山口啓山



上條信山先生書「墨魔」1982年

書象展の作品制作も終了し、一区切りついたらもう四月も半ばとなりました。『歳月人を待たず』とよく言われますが、本当に時の経つのは驚くほど速いものです。

さて、タイトルの如くわが国を代表する二大公募展読売書法展と日展に挑戦する時期が参りました。書象会では、ここ数年前から二大展への対応策として早め早めに構想を練り上げ、二展同時に準備を整えて余裕を持って納得のいく一点を出品しようと呼びかけています。例えば何度かある読売添削会において、一緒に日展の原案の指導も行うというものです。こうすると日展出品作の方向性が速やかに決定づけられるので、従来の追いつめられた状況での作品制作と異なり、自由な発想・作品のパリエーション・表現の多彩化などプラス作用が実に多く働いてくれます。一つの展覧会作品だけに何ヶ月も対峙すると、一点集中という良さもありますが、多くは鮮度を失って飽きが来てワンパターン化する傾向が強いです。二つの展覧会への作品については当然内容、形式、表現方法等が異なるわけですから常に新鮮で適度な気分転換を伴い、自由な発想で取り組むことができ、確かな相乗効果を生みだしてくれます。自らの書人としての成長のため、この機会を活用して意識的に冒険を試みては如何でしょうか。但し、一点の作品を作るのも容易ではないのにとお考えの方も多いことでしょう。その方々は、くれぐれもご自分のペースを崩さないで、今年も読売展に出品してください。

最後になりますが、書道会は今、出品点数の減少傾向が何年も続いています。書象会も同様で、懸命にその対応に取り組んでいます。上條信山先生の清冽で格調高い書風は勿論のこと、先生が築き上げられた日本書壇におけるわが書象会の立ち位置もすっかりと伝承していかなければなりません。昨今の社会状況を鑑みても高齢化の進行、景気の動向等あまり明るい状況がありません。それでも、敢えて読売書法展への出品を呼びかけなければならぬことをお察しください。書象会の皆様、今年の読売書法展に一点でも多くの方が出品してください。心からお願い申し上げます。



聞ならく道く行人来たるを

5月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

楷書臨書規定【臨規】  
(師範・準師範・段位)

化度寺碑

上條信山先生書



糟粕丘墳。年十

5月20日必着  
出品券を貼付

糟 粕 丘 墳 年 十

・手首を立て、肘を動かし、大きな運筆を心がける。  
・横画は右上がり、角度を統一する。ただし、長い横画は右上がりを少し抑えて文字を安定させる。  
・縦画の方向、長短に注意。

・長い横画は右側に向かって長く。



・横画の方向に注意して書きたい。

髪：空間を大切に。払いは伸びやかに。

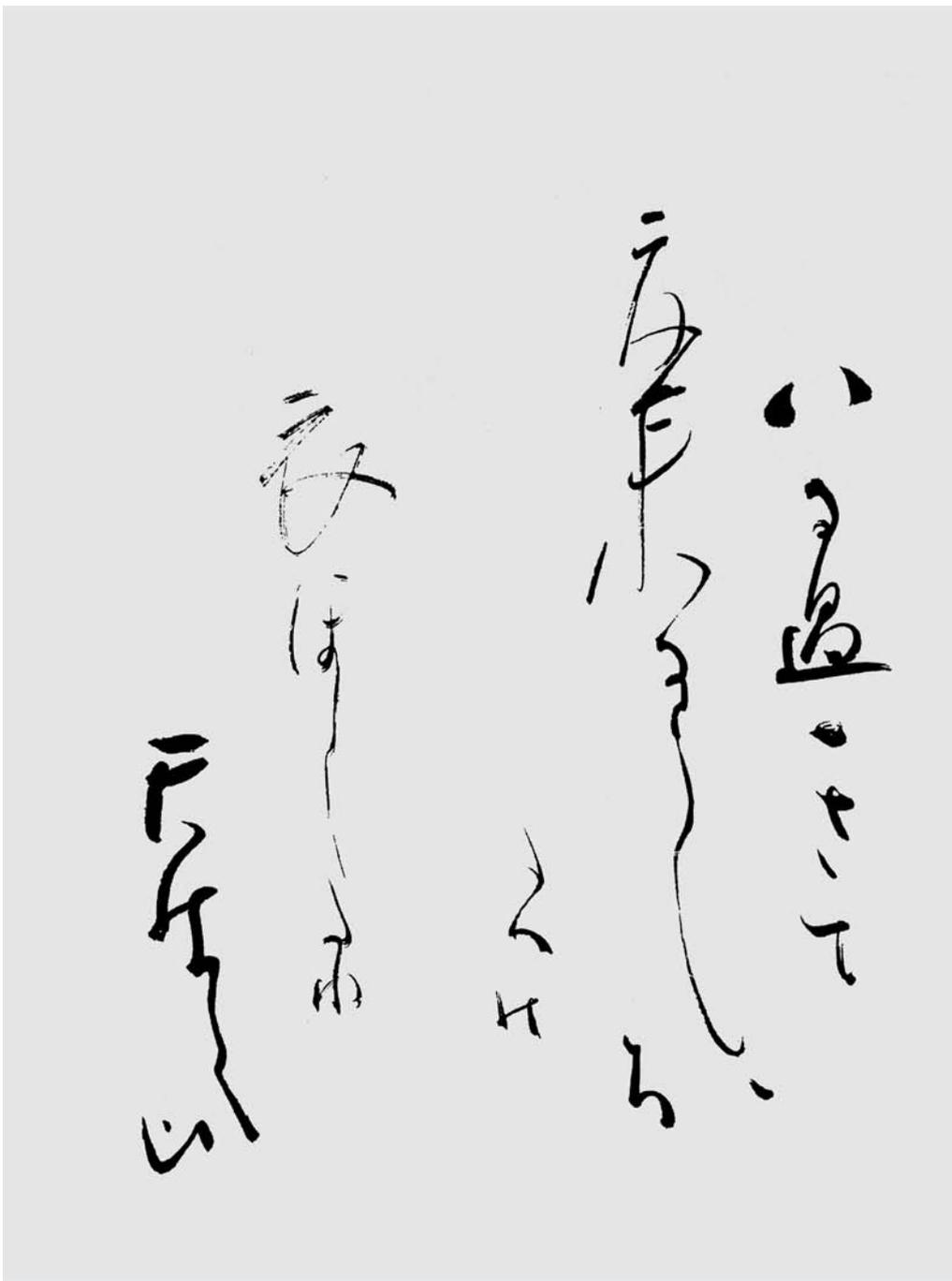


同：構えは、背勢にする。



仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

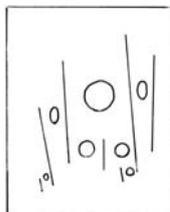
上條信山先生書



は（八）る過ぎて夏来るらしし（ゝ）ろた（多）への（能）  
衣ほした（多）り（利）天の（能）か（可）ぐ山（万葉集）

5月20日必着  
出品券を貼付

・全体構成は左図参照。



・行頭、行末の位置や  
行間の広さにも留意  
する。

・文字の大小長短の変  
化を意識しながら軽  
快に書きたい。

【過】

過

【夏来】

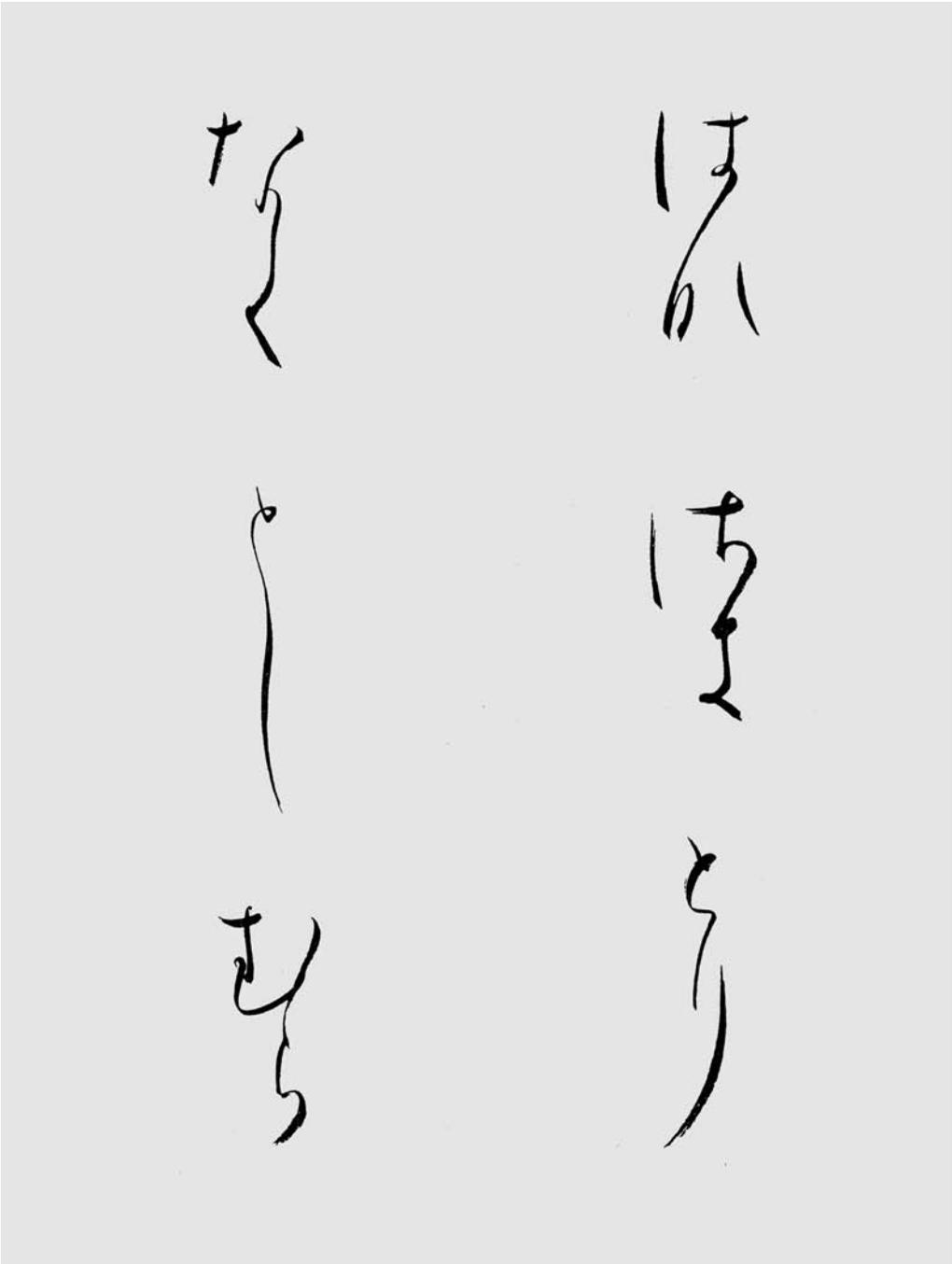
夏来

【衣】

衣

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



はな(那) さ(佐)き(支) とりなくとしむら

・二字連綿は「かな」の美しさを發揮する上で非常に大切なものです。二字が一字のつもりで、お互いがゆずりあうように書きたい。

「はな(那)」



「さ(佐)き(支)」



「と」



「なく」



「むら」



「むら」



研究【研究】

「張猛龍碑」 臨書

釈文 河南



風化移新。飲河



※どちらか一体を出品してください。

5月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します

田中節山先生書



今月のポイント

- ・点画の強さを表現する。
- ・縦画の方向に注意する。

杉山暁雲先生書



今月のポイント

- ・横画の方向の変化、文字中の空間の広さの違いをとらえる。
- ・縦画はやや右下方向にひく。



蒼松石に倚って閑なり

- ・「倚」の最終画はゆっくりと垂直におろし、スピードを上げながら一気に左下へ筆を立てて払う。
- ・「松」「倚」はP14参照。

条幅随意【条随】

中村巍山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



白草原頭京師を望めば、黄河水流れて尽る時なし。

王昌齡

(出塞行より)

- ・潤濁をつけて流れを出す。
- ・平仮名は細くならないようにする。

信生 活

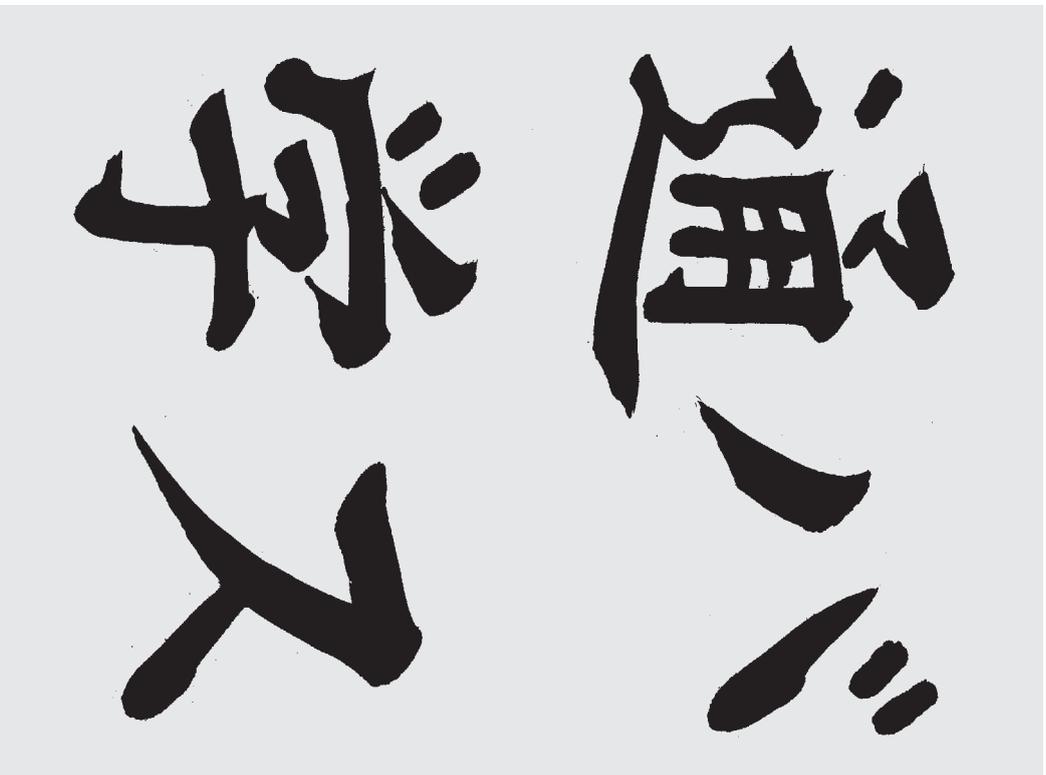
中学一年規定 【学毛】

柳澤玄嶽先生書

生 春  
信 字

中学二・三年規定 【学毛】

市澤静山先生書



小学五年规定 【学毛】

石丸晚風先生書



小学六年规定 【学毛】

荻田光山先生書

たは  
空丸

小学三年規定 【学毛】

寺尾碩雲先生書

心  
正心

小学四年規定 【学毛】

久保妍山先生書



小学一年規定 【学毛】

大島校山先生書



小学二年規定 【学毛】

小淵石峯先生書

## 硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生書

最も弱い生物でも、その力を一つの目的に集中することによって、何かを成しとげ(介)ることが出来る。水滴も岩をうが(可)つ。(カーライル)

最弱の生物でも、その力を一つの目的に集中して、何かを成しとげることが出来る。水滴も岩をうが(可)つ。(カーライル)

一般規定【一硬】(級位)

藤岡月華先生書

青山北郭に横たわり白水東城をめぐりこの地一たび別れをなす一孤蓬一万里ゆく。

中学規定【学硬】

樋口玄山先生書

大麦や小麦の茎を短く切りとって吹くと、やわらかな澄んだ音色が楽しめる。麦笛という。

## 小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小・二年	日	小・三・四年	安
小・五・六年	記念	中 学	声援

## 手本解説

・基本「間」「道」は左図参照。

・隷書条幅規定「松」「倚」は左図参照。

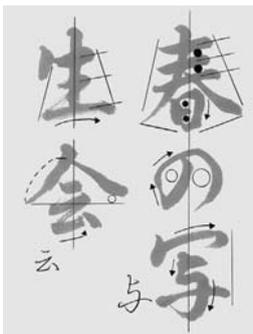
間道

松倚

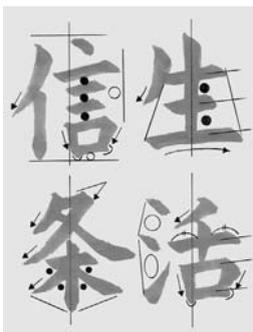
・硬筆一般規定(師範・準師範・段位)「集中」「成」「出来る」「水滴」は左図参照。

集中  
出来る  
水滴

## 学生部規定



中学二・三年



中学一年

行書では筆脈を意識し、点画の連続も連筆に緩急をつけてリズムよく書くことを目指す。墨継ぎも一文字につき一回を目安にし、始筆、終筆では丸みを帯びた筆使いで書くようにする。

「生」は三本の横画を等間隔に。「活」の六画目は横画の中央で交わる。「信」の言は横画の方向を揃え、口の縦画は内側に向ける。「条」は三つの左払いと二つの右払いのバランスに注意する。

高学年は、形の整った美しい  
文字を、速くていいねいに書く  
ことが大切です。

名前 支部 年 級段

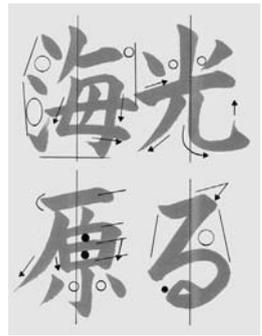
心のこもった手書きの手紙  
はどんな品物よりもうれし  
いおくり物です。

名前 支部 年 級段

う	の	バ
車	人	ス
で	を	は
す	は	、
	こ	お
なまえ	ぶ	お
支部	じ	ぜ
年	し	い
きゅう	ど	

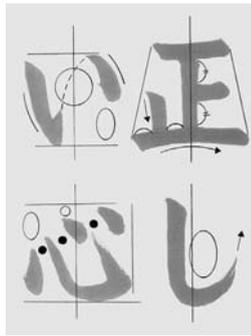
※出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。  
作品の大きさを18cmよこ7cm小一・二課題↓2.1cmのマスの紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1cm巾の罫線を引く。



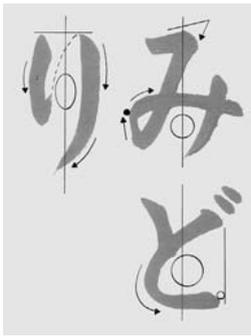
小学六年

「光」は凡の始筆を横画に浅く接するよう書く。「る」は三角形を外形とし中心線上で結ぶ。「海」は毎の縦画を徐々に開く方向に書く。「原」は凡の内部を中心より右側に配置する。



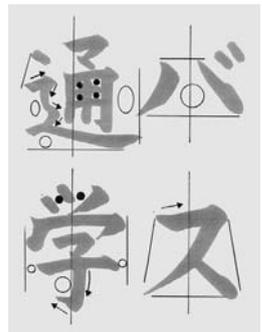
小学四年

「正」はそれぞれの画の長さや間隔に注意する。「し」は書き出しの位置と払う方向に注意する。「心」の二本の線はやや丸みをつける。「心」は四画目の点を外に出しすぎないように。



小学二年

「み」の一画目の斜画は長く、•で筆を軽く止めて書き進める。「ど」の曲がりの部分は腕全体で書く。「り」の字形は縦長にし、左右にふくらみをつける。



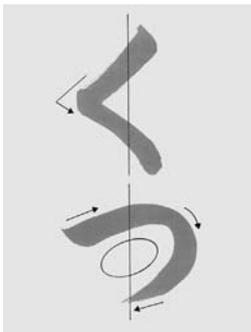
小学五年

「バ」は一、二画目の始筆の高さを抑える。「ス」の二画目の終筆は軽く止める。「通」は凡を中心より右側に配置し、このバランスを図る。「学」は「の」始筆と終筆、子のそりに気をつける。



小学三年

「は」の一画目は左にややくらみを持たせ、「れ」は最後の払いで全体のバランスをとる。「た」の二画目は傾斜の角度に注意し直線力で強く。「空」はみを最大幅にし、点画の組み合わせを意識する。



小学一年

「く」は中心より右側から書き始め、中央ではっきりと折る。「つ」は右上がり意識しながら書き始め、大回りする線の角度や方向に注意する。

乙 瑛 碑

後漢・永興元年（一五三年）

今月のテーマ

写実的臨書

大字（五か六文字）

書き方

- ① 文字数は五文字か六文字。左の6つの中より選んで書いて下さい。
- ② 半紙は縦にして書いて下さい。
- ③ 落款を入れて下さい。
- ④ 作品の表左下に、支部名と氏名、又は号を鉛筆で記入して下さい。古典研究の出品券を貼付して下さい。

奉先聖之禮

奉先聖之禮

平原高唐人

平原高唐人

臣稽首以聞

臣稽首以聞

魯前相瑛書言

魯前相瑛書言

大司農給米祠

大司農給米祠

給大酒直須報

給大酒直須報

# 「上條信山近作選（一九八三年）」その5

## ① 聴雨（一九八三年 現代書道二十人展）

作品のタイトルが詩的であり、静かで余裕のある情景が想起される。それに反して表現は実に躍動的、絵画的である。聴字を篆書体で、雨字は隸書体で書かれていて、異なる書体の組み合わせによる表現であるが、何の違和感も感じない。字形の結集力と線の縦横無尽の主張と迫力に圧倒される。雨字の四つの黒々とした点が作品のポイントとなっている。



① 聴 雨

## ② 西郷南洲詩



## ③ 寒山詩五律二首



## ④ 大方無隅



## ⑤ 調和体「西郷南洲詩」（一九八三年 松本市個展）

雄大な筆致と躍動感溢れる独自の表現で現代書道界に新境地を開いた代表作となった。大小、長短の変化を加えながら流れ出るリズムが快い。直線的な楷書とカタカナが一体となって同化し、美しい調和体となっている。長めに書いた線、黄色の用紙と墨の黒の対比は共に視覚効果を高めており、新鮮である。

## ⑥ 寒山詩五律二首（一九八三年 謙慎書道会展）

第四十五回謙慎書道会展役員室で一際話題作となった。三尺×八尺二曲、八行書きの大作は、何の拘束もない、自由自在な筆致で躍動した行書作品である。直筆中鋒の用筆で一気に呵成に運筆されており、長い線の主張が全体の変化を高め、視覚的、立体的な効果を高めている。呼吸の長さを感じず自在の結構は実に楽しい。信山先生の表現力の豊かさに圧倒されるものである。

## ⑦ 大方無隅（一九八三年 松本市個展）

巨大な四角には隅がない。老子の言葉を素材としてここでも楷書、隸書、篆書を一体化した作品である。「太い線で勢いよく、堂々とした表現を試みることにした」と信山先生の弁。すさまじい迫力で空間を充たし、書を持つエネルギーを存分に発揮している。一九八四年、読売書法展ワシントン展に参観した時、多くの米国人が釘付けになって見入っていた光景が思い出される。

（理事長代行 内藤望山）

# 第82回 謙慎書道会展

新型コロナウイルス感染防止の為  
本展は中止となりましたが作品を  
掲載します。

副会長 展覧会顧問 審査顧問 特別賞選考委員

田中節山



副理事長 展覧会総括 審査副主任 審査進行 特別賞選考委員

市澤静山



常任理事 展覧会総務 特別賞選考委員

内藤望山



常任理事 本年度審査員

樋口玄山



常任理事 本年度審査員

恩田静月

常任理事  
本年度審査員



萩田光山

常任理事  
本年度審査員



杉山窓影

常任理事  
本年度審査員



露崎玄峯

常任理事  
本年度審查員



鈴木春鳳

常任理事  
本年度審查員



竹内青紗

常任理事  
本年度審查員



畑中高山

# 第八十二回謙慎書道会展入賞者発表

## ◇青山賞

池上 湖心

## ◇春興賞

鈴木 花照 鈴木 草影 武原 幽節  
余語 元祥 吉田 節城

## ◇推薦顧問賞

田幸 智峰

## ◇特薦謙慎賞

秋葉 景華 石井 菁峰 衛藤 琴光  
荻原 梓虹 門脇 華杏 平野 壺桜  
松岡 馨秀 山口 芳節 山田 白葉  
吉田 煌扇

## ◇秀逸

浅井 菖風 池口 聖嶽 池野 愛麗  
石塚 心燈 板谷 静思 伊藤 水玉  
岩橋 祥風 宇野 壺裕 榎本 壺清  
大澤 輝節 大場 香峰 緒方 愛節  
岡野 冷泉 加賀美節真 片桐 南花

## ◇褒状

安藤 泰松 井上 江静 今福 揚光  
岩出 虹舫 上田 採花 榎本 妍象  
小笠原陽麗 小川 玄虚 影山 天性  
草薨 影宵 小森 大工 佐孝美也子  
笹川 静章 周藤 文界 庄司 朴山

鈴木 征峰 関口 越山 田口 雅華  
寺尾 桑花 土井 雲峯 富田 童柳  
長島 天意 中田 皓花 中村 春桃  
野崎 珠泉 延吉 天龍 馬場 采葉  
林 泰吟 原田 晶山 平林 静千  
藤井 静素 松井 小漱 宮澤 晃静  
向山 大我 村山 麗恵 矢作 麗川  
山中 孔心 横井 萌玉 横山 京節  
畔上 肖栄 飯田 天澄 生野 麗玉  
石井 節鳳 井戸原清光 上島 壺霄  
上原 白麗 梅原 華聖 遠藤 晨翠  
大井 凜玉 大石慈宝苑 大住 玄琥  
小沼 宗心 金澤 節雨 北ノ園京秀  
北堀 智祥 久保 真 小暮 華慶  
小林 真志 小山 栞奈 斎藤 華駿  
篠塚 葉暁 島田 桃紅 下村 香織  
杉山 燁光 宗 玉栄 高橋 桜嵐  
武田 節峰 デイビット礼山 豊原瑠里香  
中谷 友節 姫野 千節 藤原 鐘雪  
増山 静敬 宮枝 華風 宗形 麗吟  
八木橋祐介 安原 莉夏 山口 智真  
横山 仙丈 渡辺 琇心 渡邊 橙泉

☆謙慎書道会展御長壽出品章

(数え歳90以上の出品者特別表彰)

西野 江月 松本 小光 高見澤恒静  
山本 明光 早川 静節

☆U20出品者

(満17歳以上20歳以下の出品者)

石田 雛子 内海明日香 榎谷 華詠  
大久保美咲 岡本 紗弥 荻原 月和  
小倉 愛加 小倉 一彩 神林 桃子  
小暮 華逕 後藤 咲蘭 小山 栞奈  
齋藤 実里 酒井美亜里 柴平 留奈  
鈴木 心馨 鈴木 結衣 寺島 裕人  
豊原瑠里香 永濱 和歩 檜崎 帆夏  
平田 早穂 廣瀬 俊哉 松井 佑茉  
村田 連理 八木橋祐介 安原 莉夏  
吉田真理子 李 奈菜子 若山 駿仁

常任理事

石丸 暁風 市澤 静山 江上 玄光  
大澤 梢光 大島 皎山 〇荻田 光山  
〇恩田 静月 蕪木 珠紅 久保 妍山  
小瀨 石峯 小室 墨汀 杉山 暁雲  
〇杉山 窓影 〇鈴木 春鳳 関 香風  
高瀬 霞山 〇竹内 青紗 竹内 墨洋  
竹内 藍山 田中 節山 〇露崎 玄峯  
寺尾 碩雲 〇内藤 望山 中内 真意  
〇樋口 玄山 藤澤 珠玉 〇畑中 高山  
宮本 耕成 柳澤 玄嶽 山口 啓山  
渡辺 華雪

理事

青木 雪花 芦川 臨泉 畔原 小霞  
新井 雄峰 有馬 花嵐 池上 湖心  
泉澤 禾苑 伊藤 恵佳 伊藤 西光  
今井 翔山 宇野 夏夕 浦山 蒼樹  
岡田 象月 岡本 秋麗 岡本 素雪  
小川 仙草 小倉 煌雪 小田切静唱  
春日 皓静 金井 鐘華 金澤 瑤月  
上條 哲山 川島 映雪 北井 珠虹  
來司 信博 桑島 秀雪 小泉 壺藍  
古賀 沙苑 児玉 葉雪 小林 皓山

役員出品

(〇印は今年度審査員)

副会長

田中 節山

副理事長

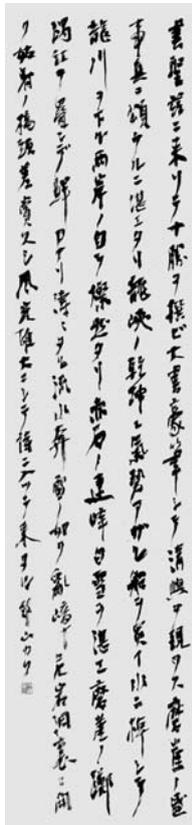
市澤 静山

青木 雪花 芦川 臨泉 畔原 小霞  
新井 雄峰 有馬 花嵐 池上 湖心  
泉澤 禾苑 伊藤 恵佳 伊藤 西光  
今井 翔山 宇野 夏夕 浦山 蒼樹  
岡田 象月 岡本 秋麗 岡本 素雪  
小川 仙草 小倉 煌雪 小田切静唱  
春日 皓静 金井 鐘華 金澤 瑤月  
上條 哲山 川島 映雪 北井 珠虹  
來司 信博 桑島 秀雪 小泉 壺藍  
古賀 沙苑 児玉 葉雪 小林 皓山

# 第45回埼玉書道三十人展

新型コロナウイルス感染症防止の為、本展は中止となりましたが、図録より作品を掲載します。

天龍峽の詩（平澤茅邨詩『信濃五百八景』（二二五×五三） 市澤 静山



吐翁閑雅（北史）（二二八×八〇） 市澤 静山



## 藤森博士の漢字表記にもの申す ⑬

書道学博士 藤森大節

この四月から小学校で新学習指導要領が全面实施されます。今回の改訂により、第一・二学年から水書用筆等を使用した運筆指導がはじまります。そのねらいは、点画の書き方や文字の形に注意しながら書写における「適切に運筆する能力」の向上を図ることにあります。

メーカーにより多少の違いはありますが、水書用筆は一般的な小筆ぐらいの大きさです。これを硬筆と同じ持ち方をして練習します。先端の柔らかい水書用筆等を使用することで硬筆では分かりにくい点画の始筆・送筆・終筆を適切に運筆する意識と習慣が養われます。これが硬筆に還元されて正しく整った文字を書くための力となるのです。第三学年から始まる毛筆を使用した書写指導へとスムーズな移行も期待できますし、書写の課題でもあった服を汚す心配がないため、安心して取り組めるメリットもあります。

書象会では二〇一九年度の支部長講習会で「水書用筆等を活用した指導法 指導者研修会」を開催しました。研修は映像解説による理論と、水書用筆を用いた実技の二本立てで行われ、指導者の立場から水書指導の目的と指導内容を理解するとともに、学習者の視点から学習効果を体験することができました。

より良い書写書道教育の実現には情報共有が欠かせません。このような講習会が定期的開催され、一人でも多くの会員が受講できる機会が設けられることを期待しています。

# 露崎玄峯書展

会期 令和二年三月十三日(金)～十八日(水)  
会場 東京銀座・ジャンセン美術館

去る令和二年三月十三日から十八日まで、春まだ浅く、桜の開花とともに雪が舞う日もあった東京銀座、ジャンセン美術館（アートスペース銀座）にて、本会常任理事の露崎玄峯先生の第一回目となる個展が開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、多くの催しが中止となる中でしたが、会期中には、田中節山会長・市澤静山理事長を始め、書象会会員は勿論、高等学校で教鞭をとられていた時代の教え子や地元葛飾区の関係者など多くの方が会場に詰めかけ、大変意義のある展覧会であったと感じます。

作品は、先生が普段から取り組まれている「漢字かな交じりの書」（調和体）を中心に、漢字作品も含め、大小を織り交ぜながら壁面に四十二点、また、机上には先生の学書の跡が見て取れる折帖による臨書作品や色紙作品を帖にまとめたものなど様々なジャンルに富み、更には使用された紙の工夫や表具の素晴らしさも相まって、参観した後には温かい気持ちで心が和み、その心地良さからいつまでも会場に留まっていたくなるような展示となっていました。

先生からお話をお伺いする中で、「古典の学習は大切。作品制作の基本は信山流、その中でいかに自分を表現するか。自分としては書の中に柔らかさと温かさを求めたい。」とおっしゃっていたことが印象に残ります。そのお言葉通り、作品には信山流の中に先生のお人柄がにじみ出ており、参観する方を魅了していたことは言うまでもありません。

展示作品の中にある「万象一如」。この言葉と作品が示す通り、今回の個展で発表された作品はそれぞれに異なりますが、その根底にある先生の作品に対する思いは全て一緒であると改めて感じる事ができました。最後になりますが、先生の更なるご活躍と次回の個展開催を祈念して、また、後進の我々に学書のあり方を見つめ直すきっかけを与えてくださった先生に感謝申し上げます。

（竹内藍山記）



じっくりご覧になる市澤先生



田中先生に作品のご批評をいただく



書作について話される内藤先生



多くの来場者で賑わう会場



大小様々でバラエティーに富んだ作品が展示

# 正師範紹介



天然ほけの花

富貴会支部

笹生 藍花

この度は、正師範の認定をいただき有り難うございました。予ばらしい字をかかれる先生がいらっしゃるよ。と友に誘われ、筆を持つ事が好きだったので早速出向き、小泉壺先生と出会いました。キリッとした御姿で筆の持ち方、線の引き方など厳しく分かり易くご指導下さいました。先生の筆遣いには感動を覚えました。また書象誌の見方や文字と文章の成り立ち・意味についても深くご説明下さいました。共に学ぶ先輩の細やかな御配慮と仲間の暖かい御支援のおかげで今日がある感謝致しております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

# 特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

## 特待生合格



飯島 菜々

高社支部 中三

今回、特待生として合格することができとても嬉しく思います。ここまでこれたのも、先生、両親のおかげです。本当に感謝しています。これからも努力し続けていきたいと思います。  
支部長先生より一言 お稽古を始めたのは早くありませんでしたが見事合格。今後皆様のお手本になる様な作品を書いてね。



大野 悠紗

有象虹支部 中三

## 全てに感謝!!

今回、毛筆に続き硬筆も!!目標の「二冠達成」一することができとても嬉しいです。今まで御指導してくださった先生、応援してくれた家族、仲間に感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございます。  
支部長先生より一言 おめでどう!!努力の結果です。感謝の気持ちを忘れず、次の目標に向かって前進、期待していますよ。



特待生

有象虹支部 中三

大草 拓麻

小学四年の終わり頃から習い始め、最初は字をきれいに書けるようになりたいと思っていました。特待生を一つのステップだと思い今後も新たな目標に向かって頑張っていきたいと思ひます。とても嬉しかったです。  
支部長先生より一言 教室では数少ない男子特待生!!よく頑張りました。学業、書道、柔道と頼もしい姿、将来が楽しみです。

## 二冠達成



岩村 芽依

皓花支部 中三

今回、目標だった「二冠」を達成できてとても嬉しいです。硬筆は毛筆よりも苦手だったけど、今まで頑張ってきたのは先生のおかげです。これからももっと字が上達できるように努力していきたいと思います。  
支部長先生より一言 苦労していた硬筆の合格、おめでどう。進学で地元を離れるけれど、書道は続けてほしいと思います。



阿部 なつ美

高社支部 中三

## 字フェチになりました。

「落ち着きがないから」という理由で小学校三年生から始めた書道だったが、いつの間にか七年目が終わろうとしている。私に書道の楽しさを教えて下さった、畔上先生のような美しい字を書くことが新たな目標である。  
支部長先生より一言 今では誰よりも落ち着いて集中できる人に。書道は今後益々上達する事でしょう。応援し続けます。



感謝

桜木支部 中三

野村 ほたる

小学校二年生から続けてきた書道で、特待生になることができてとても嬉しいです。合格できたのは、丁寧に教えてくださった先生と私を励ましてくれた家族のおかげです。ありがとうございます。  
支部長先生より一言 特待生合格おめでどうございます。部活と書道を両立させ頑張りました。更なる飛躍を願っています。

## 目標



高木 涉聖

伊奈支部 中二

小学校の頃からやり続けていた硬筆で、今回やっと特待生になることができてとてもうれしく思います。学校での勉強なども大変ですが、毛筆で特待生になることを目標にこれからも続けていきたいです。  
支部長先生より一言 硬筆合格おめでどう!!今までの頑張りが結果に現れましたね。毛筆合格も期待しております。

## 特待生になって



大西 希実

志摩支部 中二

小学校二年生から習字を始め、特待生になることができてとても嬉しいです。うまく書けずイライラしてしまう時もあったけど、諦めずに続けてきて良かったです。これからも上達できるようにがんばります。  
支部長先生より一言 黙々と頑張っている姿にいつも感心しています。更に仮名文字に挑戦していきますよ。おめでどう!!

# 特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



特待生合格

伊奈支部 中二

上林舞衣

今回、硬筆に引き続き毛筆の特待生に合格し、すごく嬉しく思います。二冠達成できたのは、毎週楽しくおけいこをさせて頂いている幸せな環境だと思います。これからも努力していきます。ありがとうございます。支部長先生より一言 昨年中の毛筆合格を目標とし見事達成、二冠おめでとうノ様々な場面で更なる活躍を期待しております。

二冠達成

高社支部 中三

小山晋平



今回硬筆に続き毛筆も特待生になることができとても嬉しいです。毛筆は硬筆よりも下手で不安でしたが、今まで頑張ってきた良かったです。もっと字が上達できるようにこれからも努力していきたいと思えます。支部長先生より一言 休まず通い二冠を達成しました。昨年の県展では特選に輝きました。良く頑張ったね。おめでとう。

今の気持ち

瑞祥支部 中三

安形 朱美澤



小学一年生の頃から現在まで、一つ一つステップアップしていき、ようやく特待生になることができました。ここまでご指導してくださった先生に感謝です。今後より一層頑張っていきたいと思えます。支部長先生より一言 特待合格、おめでとう!!一心に取り組んでいる姿勢は皆のお手本です。更なる飛躍を期待しています。



感謝

瑞祥支部 中三

大隅彩加

硬筆、毛筆の両方で特待生になることができ、とても嬉しいです。これまでお稽古を続けてきて良かったです。指導してくださった先生に感謝しています。これからも、上達できるように努力したいです。支部長先生より一言 おめでとう!!同時に達成できたのは努力と集中力の賜ですね。今後は師範に向け、更に頑張ってください。

次なるステップ

杉支部 中二

和賀井 美 琶



「特待生」という文字に憧れて七年。ついにその壁を乗り越えたいと思うとても嬉しく思います。ここまで指導して頂いた先生に感謝を申し上げると共に次の目標である硬筆の特待資格に向けて精進したいと思えます。支部長先生より一言 長い間の努力が報われて念願の毛筆特待生に合格おめでとう!!じっくり取り組む姿は本当に立派です。

二冠達成

練馬支部 中三

矢野 ことり



硬筆に続き、毛筆でも特待生になることができ嬉しいです。あきらめずにここまで続けてきて本当に良かったです。そして長い間ご指導くださった松岡先生にはとても感謝しています。これからも習字を続けたいです。支部長先生より一言 ことりさんの諦めず続ける姿勢と御家族の支えに私も多くを学び感謝しています。二冠達成おめでとう。



特待生

練馬支部 中三

尾上 奈緒

私が特待生になれたのは、やはり先生の御指導あつてのことだと思います。私に合わせた分かりやすい指導をして下さいました。今年受験がありなかなか書くことが難しかったのですがこれからも続けたいと思います。支部長先生より一言 勉強が忙しくなり時間を作るのが大変でした。最後まで諦めずよく頑張った成果です。合格おめでとう。

文字がきれいになった

石峯支部 中二

前田 実紅里



私は、小二の時に硬筆から始めました。特待生になるまで時間がかかりましたが、日を追って以前より文字がきれいになりました。今回、硬筆の特待生という結果を残せてうれしいです。ご指導ありがとうございます。支部長先生より一言 硬筆特待生合格おめでとう。バレーボール部活動との両立、立派に成し遂げることが出来ましたね。

これまでの成果

高社支部 中三

松尾 允 慈



勉強と部活との両立は大変でしたが、毎週休まず通った成果が今回このような素晴らしい形で残せたことを嬉しく思います。これまで指導していただいた先生にとても感謝しています。ありがとうございます。支部長先生より一言 姿も行動も書作品も大人の様。小さな生徒さんとも仲良くやってくれましたね。こちらこそ感謝です。

# 特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



特待生

照澤支部 中二

宇治橋 志彦

私は習字を始めて五年目になります。五年という短い年月しか教室に通っていませんが、特待生になることができました。とても嬉しいかぎりです。これからも切磋琢磨して上を目指していきたいです。  
支部長先生より一言 「心技体」を剣道と書道で更に鍛えよう。成長を楽しみにしています。



二冠達成

茅野支部 中二

真道 裡未

小学校一年生の時から書道を習い始めて、目標としていた特待生になることができ、とても嬉しく思います。先生や家族の支えがあって、ここまでこられました。本当に感謝しています。ありがとうございます。  
支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。毎週休まず続けてきた成果ですね。これからは色々な書体にも挑戦しよう。



目標達成

竹華支部 中三

寺門 茉里奈

小学校一年生から始めた書道で目標だった特待生になることができてうれしいです。一度は落ちてしまいましたが二度目の挑戦で受かることができました。これからも次の目標に向けてがんばります！  
支部長先生より一言 真面目に努力した結果です。最後は頑張りました。書を通じ親友も出来これから大いに羽ばたいて下さい。



特待生になって

聖支部 中三

宮下 慧

私は小学二年生から書道を続け、硬筆に続き毛筆でも特待生になることができました。特待生になれたのは熱心にご指導して下さいました先生のおかげです。本当にありがとうございます。  
支部長先生より一言 剣道、生徒会長、書道と努力が実を結びました。高校でも目標に向け更なる挑戦をおめどう。



感謝！

富貴会支部 中一

菊地 霰

習字を始めて、七年。「特待生になりたい」という目標に向かって頑張ってきました。ご指導してくださった先生には、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。  
支部長先生より一言 毛筆、硬筆合格おめでとう。書道が大好きでとても研究熱心です。書展でも大活躍、大いに期待しています。



念願の特待生

墨洋支部 中三

青木 巧永

小学校五年生の頃から、竹内墨洋先生のご指導の元で書道を始め、この度目標であった特待生になることができ嬉しく思っています。これからも書道はがんばって続けていきたいと思えます。ありがとうございます。  
支部長先生より一言 いつもいてねいに作品を仕上げてる巧永君。人柄そのままです。環境が変わっても頑張ってください。



継続は力

上尾支部 中二

竹村 柑太

小学二年生から習字を始め、約六年間、ひたすら「継続」を頑張りました。継続は力なりですが、その力が形になり目標を達成できました。ここまで教えて下さった先生と力が形になったことに深く感謝したいです。  
支部長先生より一言 剣道部に所属し、何事にも熱心に取り組みます。書も丁寧で目標の特待も二冠達成。夢に向かって突進！



母と一緒に

竹華支部 中三

伊藤 咲里奈

私は、五年生から母と一緒に習字を習い始めてやっと特待生になることができました。特待生になることができたのは、先生が優しく教えてくれたからです。もっとうまくなれるようにこれからも頑張りたいです。  
支部長先生より一言 努力は裏切らない。集中して頑張りましたね。書があなたを素敵な女性へと導く事でしょう。



嬉しい！

聖支部 中三

木藤 南海

私は特待生に合格してとても嬉しいです。なぜなら、毛筆の特待生になるのはとても難しく、自分でもどうしたら良いか悩んでいたからです。これまで教えて下さった先生に感謝です。  
支部長先生より一言 部活や受験勉強で忙しい中、硬筆に続き毛筆も合格おめでとう。頑張りが続けた努力の結果に乾杯！



△隷書条幅▽ 評 柳澤 玄嶽

中田皓花 微妙な線運動が栄える中

鋒の線質美大佳。

赤羽溥山 大胆な筆致で、雄大にまとめあげた。

三浦径石 運筆が丁寧で味わい深い

作品にまとめた。

林田翠山 練度を深めた線で、迫力

が感じられる。

中島泰薫 気負いのない筆遣いで絵

画的な姿あり。

渋谷静秀 重厚な中にも軽快感有り。

雄大さが佳。

樋口志豊 筆が体の一部となり自然

美を生み出した。

横井萌玉 隸法の入・収筆の技を身

につけた秀作。

△条幅随意▽ 評 杉山 暁雲

齊山霞舟 弾力の効いた運筆、逆筆

書法を会得した。

藤澤竹虹 貫通力抜群。左払いの配

分が効果的。

宿谷硯心 墨色美しく、紙面構成が

見事な作。

△通信条幅▽ 評 柳澤 玄嶽

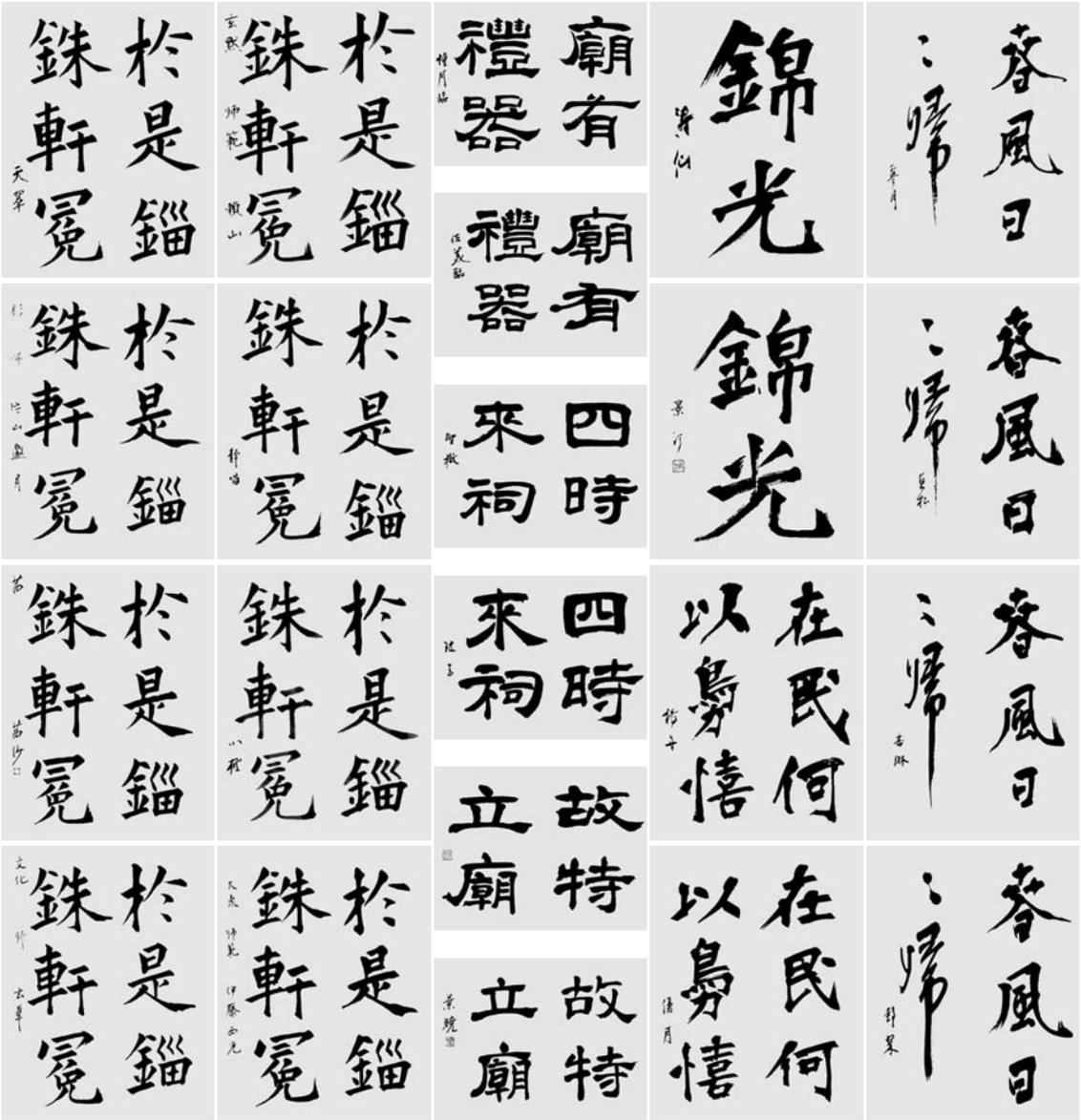
青柳緑水 重厚な線で緊張感に富み

貫通力のある佳作。

堀之上峯山 余白に明るい響きあり。

中邑弦照 骨力のある線でさわやかに

に仕上げている。



基本課題 評 樋口 玄山

琴 月 潤渾の変化が美しい作。完成度高し。  
 貞 松 軽快な運筆が線の切れ味を生んだ。  
 香 琳 豊かな墨量が線に温かさを与えた。  
 静 翠 行の中心がスッキリ通り明るい響きあり。

研究課題 評 久保 妍山

田島涛仙 鋭い線で全体感良く仕上げられた作品。  
 高杉景汀 大胆な筆致で書かれた作。この調子で。  
 大西楊舟 墨量豊かに力強くまとめられている作。  
 斉藤優月 基本に忠実に書けている。全体感も佳。

古典課題 評 白濱 静苑

懂 月 伸びやかな線で、明るい作品になった。  
 佐 美 ゆったりとした線質でまとめられた作。  
 聖 嶽 内に力を秘めて、外にその骨力を見る。  
 玻 玉 横への広がりを見せ、重厚に出来ている。  
 静 翠 筆を直立させて、隷書の線で書けた作。  
 葉 暁 小ぶりの作だが、鋭い線でまとまりあり。

師範部

△楷書▽ 評 柳澤 玄嶽

秦 頼山 伸びのある線で細部に迄緊張感が走る。  
 小田切静唱 端正な点画で結構の正確さが光る。  
 松尾小楓 紙背に徹する、深遠な線質が印象的。  
 伊藤西光 墨量を十分に含ませ、重厚で雅味ある作。  
 高橋天翠 点画の切れ味が抜群で美しく格調高い作。  
 片山邀月 線に余韻を感じ、紙面の空間処理も見事。  
 佐藤茜沙 平行、等分割の基本書法に徹した秀作。  
 小玉玄華 丁寧な運筆で腕法を効かし、安定感有り。



高橋太一 鋒先を良く効かし、伸びのある線見事。

鈴木花仙 厳しさを内に蔵して深さと安定感がある。

山田白葉 等圧で運筆し清冽で美しくまとめられた秀作。

小池峰弦 正確な運筆で一点一画に錬度の高さ有り。

井上雅幸 冷静沈着な作風で、重厚で暖かみある作。

前山景草 剛健な力強い筆致が作品に迫力を生んだ。

松田司峰 見事な写実力で点画に隙無く、錬度高し。

吉川成華 穂先の効いた軽快で切れのある線見事。

△仮名▽

評 荻田 光山

金山雨虹 線太で一貫し、全体感が安定した秀作。

井澤梢琴 縦の流れを意識した運筆が印象的。

廣崎繪字 行間が明るく伸びやかさが大変よい。

向井伶那 一字一字の字形がよく、無駄な動きなし。

浅井菖風 行間を生かして、うまくまとめている作。

笹生藍花 墨と紙がマッチして、目を引く力あり。

中島泰慧 培われてきた力を自然に感じられる佳作。

北村照節 力が全くなく、素朴な雰囲気が大佳。

今井華遥 線が美しく、淀みがない秀作。

前田名琴 学書の基本が見える佳作。墨色今一步。

倉谷聴月 線に力と明るさがあり、行立でも大佳。

嵯峨我山 構成、墨色、線質のいずれもすばらしい。

中二 近藤咲季 勇姿	出告 絵子 や思 りい	小五 希緒 水光 面る	高嶋 八十嶋 羽音 名所の 桜の	中三 文野 柚奈 作品 独創的
小六 原山瑠梨 印象	小ニ 小野 唯 れま 右わ	四年 小林 愛莉 お村 宮の	小六 優心 名所の 桜の	作品 独創的
四年 佐藤 理世 弁	小ニ 小野 唯 れま 右わ	小四 高森 結明 お村 宮の	小六 永石 咲季 名所の 桜の	中一 榎本 美月 歩く 元気に
小ニ 畑 ひとみ 貝	リウウ文 まなみ ぼん	小三 下山 花凜 や思 りい	小五 彩華 水光 面る	中一 中山 茜 歩く 元気に

学 生 部

評 田中 珠光

文野 柚奈 正しい筆使いで整った文字が書けた。  
 布山 愛 基本に忠実で、安定した造形である。  
 榎本 美月 ハネ・ハライの筆づかいが正確で美しい。  
 中山 茜 文字の配置に気を配り、全体感がよい。  
 八十嶋 羽音 筆の入り方、力加減がよく美しい線だ。  
 島村 優心 伸びやかな線で、字の形も美しい。  
 永石 咲季 位置・大きさ・形全て良い。  
 齊藤 彩華 始筆送筆収筆がよく、力強く書けた。  
 柿沼 希緒 一点一画気を抜かず丁寧に書けた。  
 小林 愛莉 筆の入り方、止め方、ハネ、みごと。  
 高森 結明 とても良い形です。名前もうまい。  
 下山 花凜 力強くどうと書けている。  
 出口 絵子 大きくうでを動かして伸びやかな表現。  
 小野 唯 どの線もていねいに書けている。  
 猪俣 啓斗 文字のいち、大きさ、形、全て良い。  
 早野 愛未 気持ちよさそうに書いている。

半紙 随意

評 小川 仙草

近藤 咲季 力強い線で大変形よく気力充実の作品。  
 原山 瑠梨 点画をしっかりと書き真剣な努力作。  
 佐藤 理世 大きさのあるどうとしたりっばな字。  
 畑 ひとみ たいせんでかたちよくかけました。

このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。

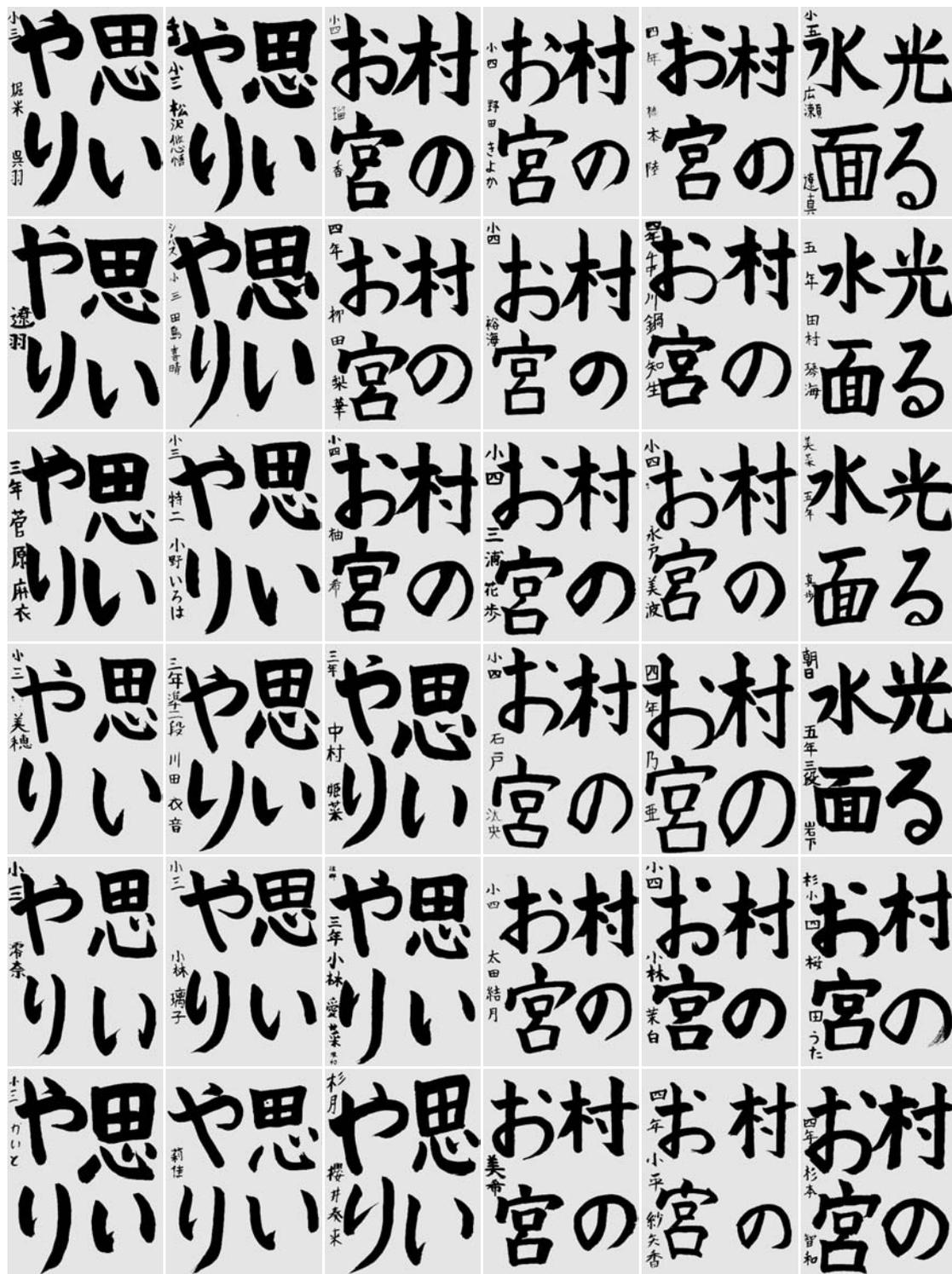


小六 官田帆乃菜 名桜所の	小六 多田朱里 名桜所の	小六 重由実 名桜所の	中一 空田心美 歩く 元気に	中二 佐野月結奈 作品 独創的	中二 松宮駿太 作品 独創的
六年 浦 名桜所の	小六 大矢有紀 名桜所の	六年 名取柚香 名桜所の	聖中一 塚原玲樹 歩く 元気に	中三 麻緒 作品 独創的	中二 美音 作品 独創的
小六 柚孝 名桜所の	小六 光悠 名桜所の	純音 名桜所の	中一 竹内慧 歩く 元気に	中二 玲華 作品 独創的	中三 小川湧京 作品 独創的
小六 岩崎真結 名桜所の	六年 中島林花 名桜所の	小六 鼓乃 名桜所の	中一 保呂家 歩く 元気に	中三 舞 作品 独創的	中二 森佐藤 作品 独創的
船橋 小六 小六 池澤りん 名桜所の	小六 咲南 名桜所の	六年 坂口正汰 名桜所の	中一 龍海 歩く 元気に	中一 藤井由緒子 歩く 元気に	中三 登岡瑠希 作品 独創的
小六 明日香 名桜所の	六年 岡村美月 名桜所の	聖中一 岩佐明 名桜所の	中一 野代菜月 歩く 元気に	中一 大津陽菜子 歩く 元気に	中二 森田悠生 作品 独創的

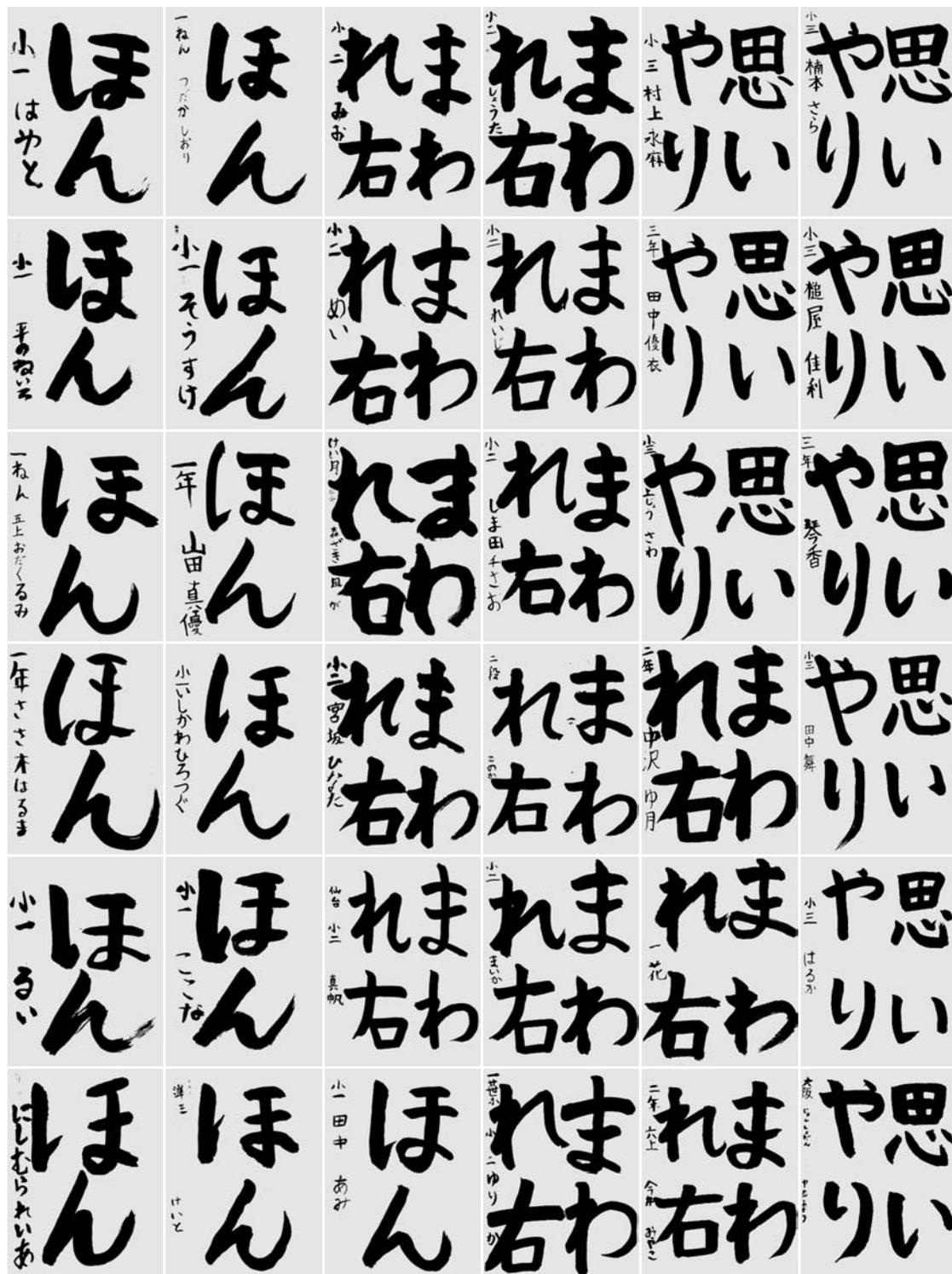
〔毛筆〕  
 練馬 松宮 駿太  
 〔中二・三〕  
 華雪 笹嶋 美音  
 神奈 小川 芽京  
 飯山 佐藤 瑞希  
 中央 昼間 舞果  
 玄樸 森田 惠生  
 若宮 佐野 莉緒奈  
 若葉 長山 麻緒  
 山雪 倉形 玲華  
 山愛 長谷川 舞  
 練馬 藤井 由緒子  
 〔中一〕  
 聖野 塚原 玲美  
 倭野 宝田 心美  
 硯扇 村田 龍海  
 秀雪 野代 菜月  
 〔小六〕  
 秀雪 石塚 由実  
 平成 名取 柚香  
 松戸 野山 純音  
 みな 坂口 鼓乃  
 この 石川 鼓乃  
 宮川 坂口 鼓乃  
 和多 岩佐 明夏  
 高社 薄井 光紀  
 一高 大矢 有紀  
 大田 中島 桃悠  
 華雪 伊藤 咲南  
 玄樸 岡村 美月  
 玄黙 宮内 乃果  
 山愛 宮田 帆乃  
 北野 畑崎 柚季  
 船橋 池澤 真緒  
 光丘 柴原 明日香

小五 伊藤康介 水光 面る	小五 松本 盛堂 水光 面る	小五 中山 幼 水光 面る	二段 前 緒 水光 面る	鈴鹿 小五 二 中 清水 水光 面る	小六 塩川那美 桜の 名所の
小五 貴朗 水光 面る	小五 藤本 七や 水光 面る	小五 五 玲 水光 面る	小五 南保 奏音 水光 面る	新城 小五 六 段 河野 成実 水光 面る	小六 阿部 七菜子 桜の 名所の
五年 小林 勇貴 水光 面る	小五 前 香 水光 面る	小五 榮利 水光 面る	仙台 小五 瑚 珀 水光 面る	川崎 水光 面る	小六 洋六 加藤 勉夫 桜の 名所の
大阪 3上 沖野 松麻 水光 面る	小五 藤崎 かりん 水光 面る	小五 増田 健吾 水光 面る	杉小五 田村 心寛 水光 面る	杉月 中 柳 一 彬 水光 面る	五年 石橋 彩愛 水光 面る
水光 面る	水光 面る	水光 面る	五年 五 玲 岩村 志保 水光 面る	小五 柳 堂 水光 面る	龍文 華 水光 面る
水光 面る	水光 面る	水光 面る	李光五年 孝五 由 聖 水光 面る	小五 咲良 水光 面る	五年 大野 心 水光 面る

玄雅 大阪 美苑 綾華 茅野 富貴 芙二 霞墨 秀雪 城彩 八潮 土筆 横二 高社 月 めぐ 右文 李光 皓花 杉 仙台 有虹 石峯 名東 凜心 杉月 高風 新城 鈴鹿 硯 龍文 龍文 小五 内藤 大衆 若竹  
 桐生 大澤 沖野 小林 内山 伊藤 菊地 星野 藤崎 針金 藤本 松本 栗原 増田 小澤 宮崎 中山 早川 岩村 田村 佐藤 南保 大竹 柴内 上西 中 柳 川崎 河野 成実 清水 大野 小松崎 石橋 加藤 阿部 塩川  
 凉名 薫 絵麻 貴朗 康介 結愛 奈加 かりん 香 空 さや 楓 心 明秀 健吾 菜莉 玲奈 由華 志保 心篤 瑚珀 葵音 莉緒 咲良 一 藍 桜良 彩愛 華 彩愛 那美



若松	中野	華雪	大田	一絵	高社	龍文	有象	皓花	名東	シ	千曲	杉月	往郷	硯	【小三】	若松	美菜	倭	成城	秦野	硯扇	練馬	光丘	青雲	柏心	霞墨	山愛	華雪	小光	書之	宝春	杉	【小四】	朝日	美菜	湊	ひま
三谷	小平	石坂	菅原	白石	堀米	市之	小林	川田	小野	田島	松沢	櫻井	小林	中村	大久保	柳田	佐藤	柚木	太田	石戸	三浦	木下	野田	小平	小森	永戸	川鍋	橋本	杉本	櫻田	岩下	関口	田村	廣瀬	遼真		
快斗	滯奈	美穂	麻衣	遼羽	呉羽	璃子	瑞佳	衣音	いろは	喜晴	悠悟	奏来	愛菜	姫菜	梨華	瑠香	美希	結月	汰央	花歩	裕海	紗矢香	乃亜	美波	知生	智和	うた	陽莉	真歩	琴海	遼真						



松聲	玄嶽	神奈	皓花	好野	霞墨	芙二	さわ	秀雪	湊	華雪	源創	若竹	仙台	練馬	溪月	光丘	水代	一葉	竹華	芙二	霞墨	若松	みな	皓花	珠紅	新濁	蔵	平成	有穂	大阪	富士	竹華	花蓮	虹苑	秀雪
西村	根岸	佐々木	小田久	平野	小松崎	小野	房野	石川	山田	小山	津高	田中	平山	宮坂	森崎	遠山	倉科	西山	高橋	脇山	嶋田	原口	新井	今井	依田	中沢	上條	田中	村上	中島	末吉	山内	樋屋	楠本	
絆海	瑠偉	悠真	瑠実	寧彩	主翔	奈嗣	大嗣	真優	湊介	葉	彩未	真帆	風雅	実想	香	花	咲緒	禮慈	翔太	都	優月	紗和	優衣	永麻	春香	舞	佳利	さら							

日記は堅苦しい形式は要らぬ。たゞその名の通り毎日何事か習慣を承け、小まめな為に行ふべきなり。簡潔に、よか、必要あり。  
浜市 師範 志真

進歩という言葉に惑わされるな。自然に対し謙虚であれ、何よりも誠実さが大切だ。  
京都 中二 百六 浜田心希

進歩という言葉に惑わされるな。自然に対し謙虚であれ、何よりも誠実さが大切だ。  
一葉 中一夜 櫻井美萌紗

卒業式の練習を終えて、先生とクラス全員で土手道のお花見をした。  
満三六 六六 小内理紗

卒業式の練習を終えて、先生とクラス全員で土手道のお花見をした。  
晴光 六六 堀中美穂

わたしの家では春になると、べんとうを持って花見に行きます。  
美松 四四 初四 白土陽菜

あさ早く、わたしは犬のさんぽをしています。  
ほ田 二二 二二 山口リリ

日記は堅苦しい形式は要らぬ。たゞその名の通り毎日何事か習慣を承け、小まめな為に行ふべきなり。簡潔に、よか、必要あり。  
香坂 師 志真

進歩という言葉に惑わされるな。自然に対し謙虚であれ、何よりも誠実さが大切だ。  
中一 北川 東 東 東

卒業式の練習を終えて、先生とクラス全員で土手道のお花見をした。  
敏時 五三 五三 四四 母那城 舞

卒業式の練習を終えて、先生とクラス全員で土手道のお花見をした。  
珠悠 五三 五三 四四 山田ウツナ

卒業式の練習を終えて、先生とクラス全員で土手道のお花見をした。  
一四 五三 五三 五三 多賀谷昂子

わたしの家では春になると、べんとうを持って花見に行きます。  
八瀬 五三 五三 八瀬 鈴菜

あさ早く、わたしは犬のさんぽをしています。  
和 二二 二二 山田ウツナ

人間は自分自身ばかりめぐらした意味の網の中にかかへて、る動物である。るるる。トキアツ  
星野 昭也

進歩という言葉に惑わされるな。自然に対し謙虚であれ、何よりも誠実さが大切だ。  
華雪 文部 中二 登馬美希

卒業式の練習を終えて、先生とクラス全員で土手道のお花見をした。  
月穂 五三 五三 六六 川久保美鈴

卒業式の練習を終えて、先生とクラス全員で土手道のお花見をした。  
山安 六六 六六 林 桃子

わたしの家では春になると、べんとうを持って花見に行きます。  
五三 五三 五三 五三 北川 遼太

わたしの家では春になると、べんとうを持って花見に行きます。  
書 四四 四四 書 野々倉士

あさ早く、わたしは犬のさんぽをしています。  
有 五三 五三 小酒井 まな

進歩という言葉に惑わされるな。自然に対し謙虚であれ、何よりも誠実さが大切だ。  
瑞祥 中三 特待 安形朱美濤

進歩という言葉に惑わされるな。自然に対し謙虚であれ、何よりも誠実さが大切だ。  
霞屋 中二 二二 吉原 優衣

卒業式の練習を終えて、先生とクラス全員で土手道のお花見をした。  
倭 五三 五三 七四 山下 真結

卒業式の練習を終えて、先生とクラス全員で土手道のお花見をした。  
有 五三 五三 六六 有 牧原 史佳

〔硬筆〕

【一般】

港南 関 窓真  
春玖 横山 京節  
暁月 唐木 暁世

【中学】

瑞祥 安形朱美濤  
京都 浜田 心希  
玄樸 北川菜乃果  
華雪 笹嶋 美音  
霞墨 吉原 優衣  
一葉 櫻井美萌紗

【小五・六】

練馬 与那城 舞  
有穂 川久保美鈴

倭

湊

岩下 真結  
小内 理紗  
吉田 優菜  
山愛 牧原 桃佳  
有象 林 史佳  
皓花 畑中 美嬉  
この 多賀谷昂子

【小三・四】

光丘 北川 遼太  
若松 白土 陽崇  
八潮 新海 鈴菜  
書之 河野 蒼士

【小一・二】

蓮田 山口 璃々  
和 清野 莉愛  
有虹 小酒井まな













Table with multiple columns and rows listing names and their associated categories or grades. Includes a central section titled '小・中学校の部' (Elementary and Junior High School Division) with sub-sections for '愛心支部' (Aikoin Branch), '飯山支部' (Iihama Branch), and '伊奈支部' (Ina Branch). The table lists names like 松代, 美智子, 石峰, etc., and their corresponding group or grade.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

準八	岡本真二	中村琴	今村颯	波止柗	3下	新服部準	6下	上條桃	準初	北尾育	準八	結衣	4下	島田知	2下	高橋さ	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
準七	安井涼	海瀬由	菅原麻	加藤有三	3上	星野遙	7上	小松庸	準初	千葉柚	準八	結衣	4下	島田知	2下	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
六段	京本結	石川亜	原口結	古田原	2上	福田麗	7中	花泉佑	4級	柴田權	準七	岡田一	6段	吉原優	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
準六	筒井康	大澤潤	波止香	佐藤友	準二	村上瑛	準二	熊澤允	6級	小山湊	準六	萩島舞	準四	酒井綾	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
準五	友國結	木下愛	谷崎清	村上瑛	準二	高田直	7下	横田利	8級	富田湊	準六	福田一	準四	酒井綾	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
準四	真鍋海	高橋美	本礼	吉田彩	初段	坂上恵	8中	川辺昌	3級	羽島侑	準七	内海慶	準二	岡田真	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
準初	落合美	伊賀一	榎本礼	柳内香	準初	石坂美	準初	石井道	3級	羽島侑	準七	尾賀夏	準二	岡田真	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
二段	岩本正	近藤仁	小出慧	幸福香	準初	石坂美	準初	石井道	3級	羽島侑	準七	尾賀夏	準二	岡田真	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
五段	原実花	吉田優	北村美	清水周	特2	長谷川	5下	柴田權	7段	内野有	準五	塚本愛	準一	真家陽	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
準初	山本正	伊原麻	小出慧	齋藤優	2上	大塚瑠	6下	信吉權	6下	肥田類	準六	堀江美	準二	山内暖	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
三段	沖野絵	松久美	磯山侑	山田紗	2中	村上干	7中	八橋	7段	小川明	準六	藤崎か	2中	眞家彩	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
六段	藤江卯	河内山	江良美	清水春	2下	中村美	8中	鳥居英	準六	岡本理	準三	西元綾	初段	立花愛	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
五段	宮田紗	高橋凛	佐々木	野島ち	3下	小林駿	6中	富田快	準五	矢野実	準二	海野蒼	7下	豊崎蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
準五	原健志	大野遠	山田小	赤佐亜	3下	野島ち	8中	小山湊	準五	矢野実	準二	海野蒼	7下	豊崎蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
四段	安井彩	大級	松久美	伊藤美	4下	井岡真	準四	望月佑	準六	高島一	準六	廣原結	初段	星海野一	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
五段	三平清	横田智	大淀支	尾川一	4中	北林	準四	望月佑	準六	高島一	準六	廣原結	初段	星海野一	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
準初	池田恵	山下遥	今村颯	黒澤洋	4中	井岡真	準四	望月佑	準六	高島一	準六	廣原結	初段	星海野一	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
特2	沖野瑠	松本哲	丸丸	戸越晴	5中	太田利	準五	菅高優	準五	島田琉	準四	宇都優	準八	岩崎真	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五		
一段	友國綾	日野利	伊藤美	川保舞	5下	池田望	準五	高島彩	準五	大関和	準五	岩崎真	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五				
六段	松本哲	富永瞬	伊藤美	伊藤美	5下	演野朔	準五	高島彩	準五	大関和	準五	岩崎真	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五				
準初	金平百	田崎滯	飯田真	五十嵐	6上	齋藤花	準五	高島彩	準五	大関和	準五	岩崎真	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五				
特1	落合永	2中	飯田真	花泉紗	6上	齋藤花	準五	高島彩	準五	大関和	準五	岩崎真	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五				
3下	松永未	2中	飯田真	森真人	7上	大井優	準二	吉井ま	準三	吉井ま	準三	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五				
5上	大原有	2上	飯田真	森本大	7上	大井優	準二	吉井ま	準三	吉井ま	準三	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五				
3上	中島ゆ	2上	飯田真	木村樹	7上	大井優	準二	吉井ま	準三	吉井ま	準三	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五				
8下	佐川希	7段	野間瑠	高橋柑	7下	中村瑠	準三	古矢奈	準二	小島れ	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五				
5下	池田風	7段	野間瑠	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五
新松永明	7段	野間瑠	堀切望	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五
準七	京本結	7段	野間瑠	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五
準三	岩村稔	7段	野間瑠	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五
準二	☆岩村稔	7段	野間瑠	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五
準一	☆岩村稔	7段	野間瑠	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五
特待	鈴木理	7段	野間瑠	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五
特七	藤田陽	7段	野間瑠	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五
準六	岩島聡	7段	野間瑠	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五
四段	中島桃	7段	野間瑠	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五
準四	國井利	7段	野間瑠	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五
準四	蓮見優	7段	野間瑠	齋藤遙	8中	小山宏	2級	村松香	準五	小川明	準五	佐々木	準二	古矢奈	準二	石川蒼	準八	高橋志	4級	戸谷光	1中	窪田拓	準五

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with 10 columns and 100 rows of names and numbers. Columns represent different groups (e.g., 六段, 五段, 四段) and rows represent individual members. Includes sub-sections like 虹苑支部, 皓花支部, 高社支部, etc.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。



Table with 10 columns and 20 rows of names and grades. Columns include names like 江上和, 緑川和, 吉家利, etc. Rows represent different categories or groups. Includes sub-sections like 中野支部, 船橋支部, 芙蓉第一支部, etc.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Table with 10 columns and 100 rows of names and grades. Columns include names like 松戸支部, 美菜支部, 湊支部, 御代田支部, etc. Rows list names and their corresponding grades (e.g., 7段, 6段, 5段).

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)



# 昇段級試験 師範昇格試験 要項 特待生試験

左記の要項にもとづき昇段級試験並びに師範昇格試験、特待生試験を行います。  
ふるって力作を御出品ください。

## 昇段級試験

### 出品規定

- 小・中学生  
五月号の毛筆規定  
五月号の硬筆規定
- 一般  
四月号の漢字条幅規定  
五月号の隷書条幅規定  
五月号の楷書臨書規定  
四月号の行書臨書規定  
五月号のかな規定  
五月号の硬筆規定

### 出品料

- 小 学 生 一 点 につ き 五 〇 〇 円
- 中 学 生 一 点 につ き 五 〇 〇 円
- 一 般 一 点 につ き 一 〇 〇 〇 円

## 特待生試験

### 出品資格

・小・中学生で現在準八段の者

### 出品規定

・小・中学生は昇段級試験と同じ

### (級位用)

### 出品料

- 小 学 生 一 点 につ き 五 〇 〇 円
- 中 学 生 一 点 につ き 五 〇 〇 円

## 師範昇格試験

### 出品資格

準師範試験 一般部で準五段・五段の者  
師範試験 準師範の者

### 出品規定

昇段級試験の一般部規定に同じ

### 出品料

一体につき

☆準師範試験 四〇〇〇円

☆師範試験 五〇〇〇円

### 出品の手続き

- 1 支部及び個人宛に要項、出品目録、師範・準師範・特待生試験受験名簿、申請書を送ります。
- 2 師範・準師範・特待生試験受験者は名簿に必要事項を記入し、作品にバーコード出品券を必ず貼付の上、共に提出すること。
- 3 返信封筒は不要となりました。
- 4 段級位の認定証は一部三〇〇円です。認定証の要のみ申請書に記入し、「要」の場合は出品料の欄に加算すること。  
(個人で認定証を申込み時は返信切手二二〇円を同封し、返信用封筒は不要)
- 5 師範の認定証は八月号発表後に申し込む。
- 6 為替・振込にての送金は御遠慮下さい。  
出品料が千円以下の場合も切手でも結構です。

締切日 五月二十一日(木) (厳守願います)

### 発表

出品者あて成績通知をもって発表にかえさせていただきます。  
師範試験及び特待生試験の合格者は八月号誌上に発表の予定。

### 出品先

〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六 上條方

書象会 藤森大節あて

## 《書展予告》

☆第15回滋賀書作家協会会員展

会期 四月二十四日(金)～二十六日(日)

会場 大津市歴史博物館2階展示室

出品者 武原幽節(本会関係)

今後の書象会の行事予定としては、読売展の作品添削会、様々な講習会を計画しています。しかしながら新型コロナウイルス感染症防止に伴う公共施設の休館等により、日程や会場を変更する場合がございます。その際には、書象誌や支部長の先生方を通してご連絡をいたしますので、よろしくお願いたします。

また、会員の皆様もお体には十分にご留意下さい。  
(書象会)

発行人 (有) 書象  
代表 上 條 節 夫

東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六  
郵便番号180-0001 電話〇四二(五三)九七四三  
振替口座 〇〇一九〇一七一二五六九一  
振替名義 (有) 書象  
印刷所 株式会社 リンクス 象

氏名